

白神山地・追良瀬川源流紀行

【行動日】平成 27 年 8 月 11 日～15 日

【参加者】C L 辻本・S L 橋本・岸野・小原・会員外 1 名

【コース】秋田県側・真瀬川支流中の又遡行～県境越え～サカサ沢下降～追良瀬川下降～
ウズラ石沢遡行～白神岳避難小屋～白神岳登山口

沢旅は、追良瀬大橋に通じる県道 28 号線が土砂崩れのため閉鎖と分かり、溯ることができず、秋田県側の真瀬川支流中ノ又沢から県境を越え、追良瀬川源流域に入った。源流域は誰もいない。滔々とした水音が聞こえ、ブナの原生林に包まれ、岩魚の魚影が走るだけ。 白神山地・追良瀬川源流で癒されてきた。

8 月 11 日

夜 9 時少し前、5 人が揃い橋本号はスタート。帰省ラッシュを考慮し、東関道～圏央道～常磐道～東北道～秋田道のコースを順調に辿り、午前 4 時には能代南 I C に着く。全員が運転できると負担が少なく、まあまあの睡眠時間を得ることができた。

8 月 12 日 「密敷に打ちのめされる」

コンビニで朝食、昼食を購入し、真瀬川林道（建設中止になった青秋林道の一部）の三ノ又沢と中ノ又沢出合い付近で車止めのゲートがあり、千葉からの長い運転を終えた。今回、車は白神岳登山口にデポし、タクシーを利用して入山場所に戻った。共同荷物を振り分けザックを作り、予定より 1 時間近く早い、8 時 20 分にスタート。長く暑い林道歩きが始まった。真瀬岳登山口に 2 時間弱をかけ到着したが、地図にはない林道が出現。尾根筋の林道に入ったが間違い。暑い中、引き返し作業道を進む。5 分ほどで伐採中のチェーンソーの作業音が響き渡る場所に出た。時々「ドス～ン」と迫力を持って木が倒されている。ここでも作業の邪魔になると、泥んこ道を行くが耐え切れず作業員に断りを入れ、伐採地を通らせていただき、中ノ又沢に早々に入渓した。溪はゆったりとした流れで、ここの主である岩魚が次々と走る。Co270m から co500m までは快調そのもの。心は県境を越え、追良瀬川源流域に遊ぶ姿を思い描いていた。



いつもスタートは元気



沢中で休息

co550m の二又で右沢、左沢と意見が分かれた。右沢には 15m ほどのナメ滝があり、数年前の記録には滝などにはなかったはずと、左沢を登ることに決めた。

これが 3 度目の間違い。最後の詰めは猛烈な藪。少々
の藪は覚悟していたが、漕いでも、漕いでも県境は分からず、稜線と思しき所に着くが、後ろで GPS を持つ橋本さんから「違う、もっと右」の声が飛ぶ。尾根は密藪に覆われ、とても行けそうにない。

薄い所を狙って藪を漕ぐが「違う、違う」の声。「もう、右は崖。どうするんだ。どっちだ!」と段々、腹立たしさと、焦燥感から体力が萎えてくる。相談の結果、もうこれ以上は無理と敗退を決め、下りることにする。急崖は笹藪を掴み滑り降り、虫にもやられ、むなしく沢形を拾いながら、co520m 付近の右岸にテン場らしき所を見つけた。ここで踏みとどまり、明日、再チャレンジすることを決め、テントを設営した。重いザックから解放され、350ml のビールでひとまず乾杯。焚き火を熾し、今夜はシーバスウィスキーで盛り上がる。豊富な食料に舌鼓を打ちながら、猛烈な藪に打ちのめされた心を癒した。

睡眠不足、4 日分の食糧の重さ、挫折感などからアルコールも進まず、早々にテントへ潜り込んだ。



時々、岩魚と遊ぶ



藪が・・・



テン場で安堵



癒しの森と藪





12
日に歩いたコース

8月13日 「原生林に囲まれて」

5時起床、7時出発。快眠、快食、快通でみんなの体調は万全。350ml + 2食分だけ軽くなったザックを背負い、再び中ノ又沢を遡行する。迷った二又は右へ。15mほどのナメ滝は階段状だが、ホールドがボロボロ。念のためにザイルを出し通過。

30分ほどで詰めになるが、赤テープが散見し沢形も



2日目の出発

明瞭。少しの藪漕ぎで県境を通過。サカサ沢に落ちる枝沢も明瞭。「昨日の苦労は何だったんだ！」



滝は確保で



県境の藪

県境を越えるとはっきりと沢筋となり、時折り鬱蒼とした原生林が広がる眺望を見ることができる。この山域にいるのは我々5人だけ。(熊はいるはず)もう完全に癒しモード。

懸念していたゴルジュも30mザイルの懸垂下降で難なく降りることができた。

段々、沢幅が広がり、樺森も広がる。笑い声が多くなり、岩魚が群れを成して走る。

「ここだ、ここに来たかったんだ！」

癒しの森に包まれている実感があった。

Co520mでサカサ沢本流と合流。ここから沢は追良瀬川となる。

努めて水中を歩き、岩魚を追いかけたり、子供のようにはしゃぎながら川を下る。

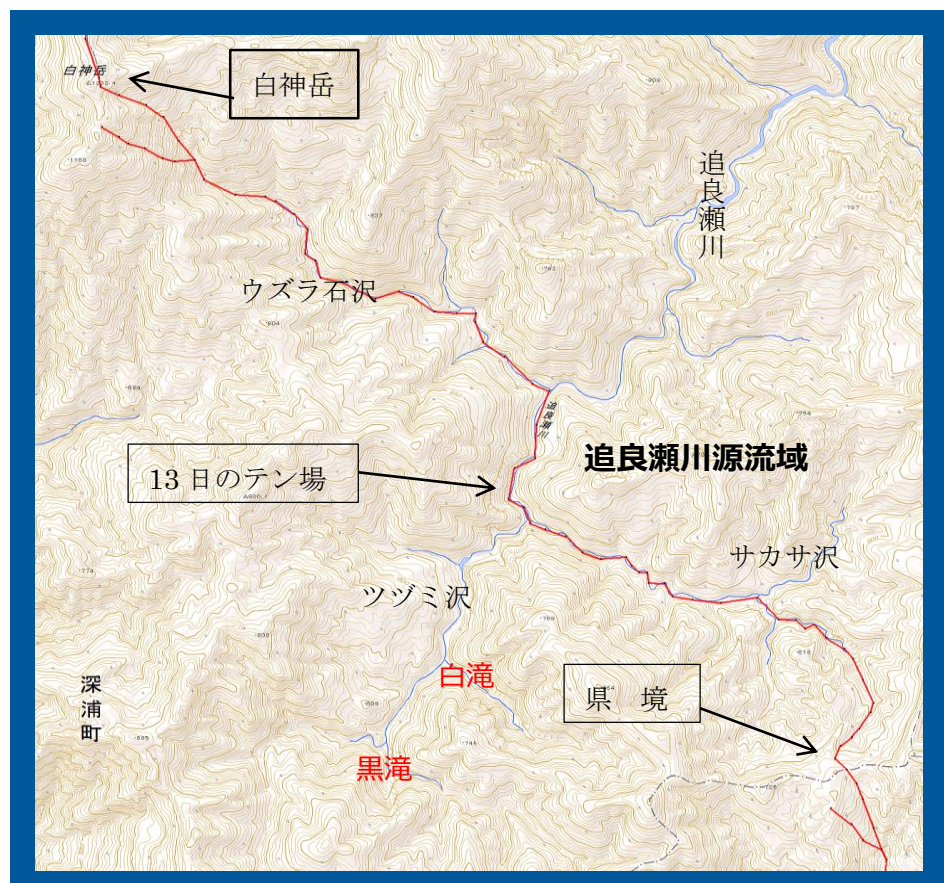
ツヅミ沢と出会いから100mほど下のマス止の淵付近で今夜のテン場とする。



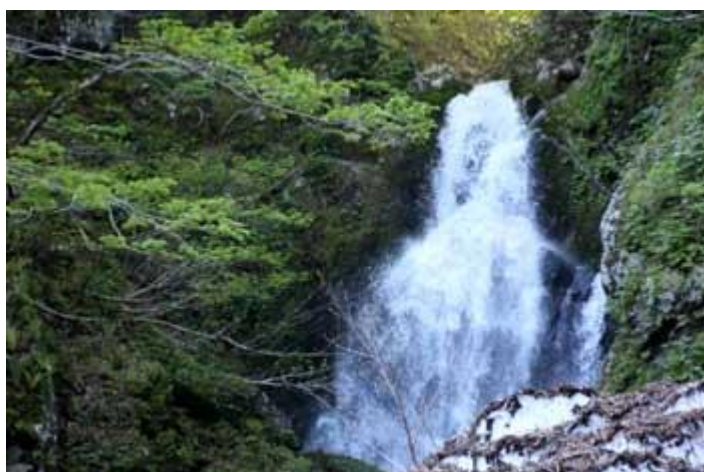
県境を越えて



熊の足跡



津軽森林管理署から
「一日ボランティア巡視員」
を仰せつかった。No.96



ツヅミ沢枝沢にある「黒滝」



幻の滝と言われる「白滝」

テントを設営し、ツヅミ沢上流にある幻の滝を訪問しようと、ツヅミ沢に入ったが、雨が本降りになりだした。幻の滝訪問はあきらめ早々にテントに戻る。

雨はますます強くなり、川の水も濁りだした。所用以外、テントから一步も出ることができない。ザックはツェルトと銀マットで覆い、食事グッズは大型ビニールでテントそばに配置する。

テント内でご飯を炊き、お湯を沸かすなど、まるで冬山と同じ。お腹を満たせば後は眠るだけ。午後8時、雨は一向に止む気配はない。川の濁流を考えると「もう一日、滞在かな?」と頭を過る。



樺の巨木

8月14日 「迷っても」

夜半にテントをたたき雨の音が止まった。

目覚めたのは午前5時。川を見ると濁っていない。

未だ平水にはなっていないが、これなら遡行ができる。朝食を摂り早々に沢靴を履く。

今日はウズラ石沢を遡行し、白神岳山頂に向かう。

心なしかザックも軽くなっている。水量も少し多

くなった追良瀬川を下降する。川幅はさらに広く

なり、暫くしてウズラ石沢の深い淵が待っていた。

8年前ここは左岸をヘツったが、どうも終了点あたりのスタンスが見えない。メンバーを考え淵に入って通過することに決めた。淀んだ淵は胸辺りの深さで、全員無事に渡り終え、ウズラ石に入った。

懐かしきウズラ石沢。感傷に浸りながら元気よく遡行する。ゴルジュや滝、淵など次々に現れる。最

初の滝は右岸の大石から上がる。大きな淵は、手前のルンゼを登り、右にトラバースと考えたが、ト

ラバースはやばいと判断。右の穴が上に通じてはいないかと、岸野さんに泳いで確認してもらったが、

上に通じていず、倒木を登ってみると左の壁に乗り移れると判断。トップを空身で行ってもらった。



マス止の淵を出発



キッシー、頑張る



壁に移れるよ、



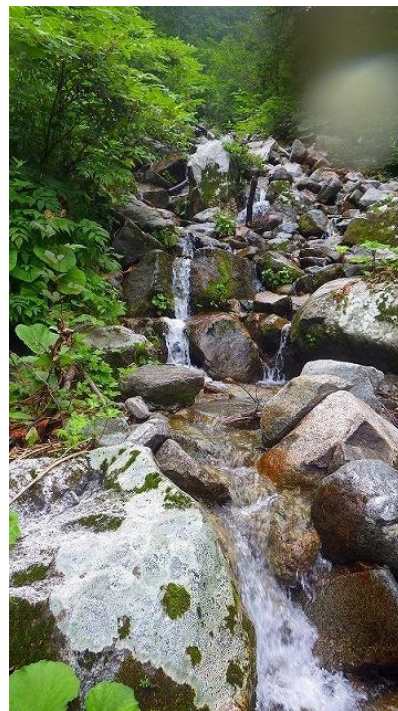
空身でチャレンジ

次のゴルジュも水に入って突破。以前、ザイルを Fix して巻いたところが思い出せない。チームワーク良く、快適に遡行が進む。段々と沢は、右に左にと分かれる。8年前の迷い場所、co700mは橋本さ

んの GPS に確実に導かれる。しかし co880m で分かっていながら、左に入ってしまった。「山頂から続く稜線に出れば、きっと踏み跡があるさ。」と軽く考えたのが誤算。きつい斜度に四つん這いになりながら、笹を掴み木の根を掴み、崩れる沢筋を登る。「もうすぐ山頂で一杯飲めるよ。元気出して行こう」と声かけながら進む。が、稜線近くなると蜜藪となり、体力勝負になってくる。確かに稜線に届いたと思ったが、これ以上進むことができない。踏み跡もない。藪から上がり、稜線を見ると行けそうな感じもするが撤退を決意。あと直線で 150m ほどなのに・・・。



段々、沢が複雑になってくる



本筋の沢



小雨くらいは蓮の傘で

もう、疲れた～



時間も切迫してくる。足早に 300m 弱下降する。ガラガラと岩を落としたり、滑り落ちたり必死に分岐点まで下りた。分岐点で暫し休息後、またもやガレ場を上がっていく。合羽を着るほど雨がきつくなり、もうびしょ濡れ状態。私は昼におにぎり 1 個食べただけ。顔が真っ青になり、明らかにシャリバテ状態。みんなから遅れ、ビバークを覚悟したほど。押し込んだおにぎりが効きだしたのは、10 分後。どうやら遅れを取り戻し、みんなと歩みが揃う。

稜線近くなると藪が出てくるが、沢筋はハッキリしている。そのうち避難小屋の水場に出た。安堵

感で足も快調になり、避難小屋に辿りついた。日の暮れ始める 5 時過ぎの到着だった。

小屋は先客が 1 組だけ。濡れたザック下ろし、ウエアを脱ぎ、沢支度を解いて、晩餐の用意が始まる。

無事、達成を祝って日本酒で乾杯！ 食事も豪華？にいただき、山頂の夜は更けていった。

8 月 15 日・16 日 「旨いものが食べたい」

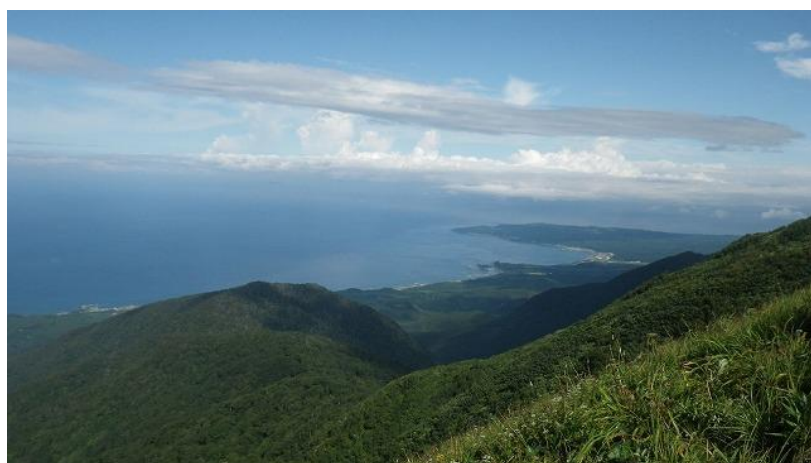
ゆっくりと、ゆっくりと山で寝坊を楽しみ、7 時起床。朝の行動の全てを終え、山頂と小屋前で記念撮影。ザックに沢靴、スパッツ、ガチャなどを入れると、標高差 1000m の登山道を下りる。眼下には青い海と白い渚の日本海が広がり、爽快感が体を満たす。昨夜は期待した日本海に沈む夕日が、見られなかったのが残念だった。早く風呂に入りたい。旨い海産物を食べたい。思わず足が速くなる。長い登山道に嫌気が出る頃、駐車場に着いた。午前 11 時だった。



白神岳山頂にて



白神岳山頂避難小屋



「白神より万緑おちて日本海」



無事下山を喜ぶ

下山後は八森漁火温泉で 4 日間の垢を落とし、旨いものを求めて日本海を南下。酒田で宿を取った。酒田の居酒屋で食った岩牡蛎に中り、夜中から 3 人が下痢で苦しみ、一人が病院で診察を受けたが、SA に止まり止りしながら、無事、7 時過ぎ千葉に帰った。

